



# 高等部の実践

# 目 次

I 個別の指導計画を生かした実践事例を進めるに当たって	165
-----------------------------	-----

## II 実践事例

### 事例A

国語の授業を中心にしながら、場や状況に応じて  
自分を表現することを目指した取組

166

- 1 対象児について
- 2 指導経過
- 3 まとめ
- 4 今後の課題

### 事例B

学校の内外でよさを生かし自信を育てることを  
目指した取組

173

- 1 対象児について
- 2 指導経過
- 3 まとめ
- 4 今後の課題

### 事例C

「個別の指導計画」の成果や課題を、卒業生個表で進路先へ  
伝え、「アフターフォロー」で支える縦への移行に関する取組  
—福祉施設で働くAさんの事例を通して—

181

- 1 対象の卒業生について
- 2 在学中の取組
- 3 卒業時に当たり
- 4 卒業後の生活から
- 5 Aさんに関する移行支援の検証
- 6 今後の移行支援を考える

III まとめ	188
---------	-----

- 1 個別の指導計画の作成と活用から得た知見
- 2 機能的で実用的なシステムづくりのための改善点

## I

## 個別の指導計画を生かした実践事例を進めるに当たって

卒業後の生活を見据えたとき、移行の視点が大事になってくる。移行については学部研究理論で述べてあるので、参照していただきたいが、学校で取り組んだことが家庭、地域、進路先などいろいろな場面にどのように移行されているかを検証してきたいと考えている。

そこで、家庭との連携、産業現場等における実習（現場実習）での実習先との連携、卒業後の進路先との連携がどのように図られているか、以下の三つの事例を抽出して移行支援の在り方を検証していくことにした。個別の指導計画がいかにか生かされているか、システムの検証について、横への移行、縦への移行の視点で考えていきたい。また高等部がこれまで大事にしてきた「よさやできることを生かす」「働くことと余暇」について、事例でも念頭に置いて取り組んでいる。

## 事例A

国語の授業を中心にしながら、場や状況に応じて自分を表現することを目指した取組

## 事例B

学校内外で、よさを生かし自信を育てることを目指した取組

## 事例C

「個別の指導計画」の成果や課題を「卒業生個表」で進路先へ伝え、「アフターフォロー」で支える縦への移行に関する取組

～福祉施設で働くAさんの事例を通して～

- 事例Aでは、意思の伝達のニーズが、国語の授業を中心とした取組で、他の場面でどのように広がっているかの例を紹介する。
- 事例Bでは、学校内外での活動を中心とした取組（よさを生かした取組）の中で、他の場面でも自信を持って活動できていく例を紹介する。
- ※ 事例A、Bでは、個別の指導計画にかかわる連携の中で、特に教師間の連携、家庭との連携、現場実習先との連携について検証した。
- 事例Cでは、3月に卒業した生徒の事例を通して、これまで学校で取り組んできた移行支援がどのように進路先につながってきたかを「卒業生個表」を中心に紹介する。
- ※ 事例Cでは、特に進路先との連携について検証した。

（文責：大山 隆）

## II

## 実践事例

### 事例A

国語の授業を中心にしながら、場や状況に応じて自分を表現することを目指した取組

### 1 対象児について

T・K児（高等部3年生 男子）

#### (1) 障害の状態

知的障害，声帯の発音が未成熟で，大きな声は出にくい。

小1時にてんかんの診断を受け，現在抗けいれん剤を服用中。

#### (2) 諸検査結果から

S-M社会生活能力検査と全訂版田研・田中ビネー知能検査を実施。

知能検査においては，言語・数量の抽象的な理解や短期記憶等において苦手な面が見られる。

社会生活能力検査においては，身辺自立や自己統制は高い数値を示しているが，移動面，意思交換でやや落ち込みが見られる。

#### (3) 「卒業後の生活」についての本人や保護者の希望

＜働く生活＞ 福祉施設に通所か入所。2，3年入所して生活リズムをしっかりしたい。

＜家庭生活＞ 家族でいつまでも一緒に生活がしたい。（入所の経験後）

＜余暇生活＞ 今までの友達，新しい職場の友達等と休日を過ごしてほしい。

### 2 指導経過

実態把握（平成14年4月）

#### 学 校

（行動観察，諸検査，これまでの取組状況等からみて）

- ・体調面で不安があり，発作があると休むことが多いが，高等部3年になったこと，児童生徒会長になったことで，少しずつ自分の役割に自覚が見られるようになってきている。
- ・人とのかかわりは豊かであるが，場や状況に応じた態度など課題がある。（あいさつや返事，言葉遣い）照れや緊張もあり，自分をうまく表現できない。
- ・長時間の作業は苦手で，仕事に対する意欲面はもう少しである。

#### 家 庭

（家庭訪問，生活スケジュール，生活地図，生育歴等）

- ・ゲームをしたり，音楽を聴いたりすることは好きで，一人で過ごすこともあるが，休日など友達に連絡し一緒に過ごすこともある。
- ・照れもあるのか，家で学校であったことを話すことが少ない。
- ・体調面に不安があり，体の調子により，帰りのことを気にする。
- ・自分から進んで家の手伝いをすることが少ない。

↓  
< 教師の願い (学部ミーティング) >

- 場や状況によって態度を変えることなく、人とかかわってほしい。
- あいさつや返事、言葉遣いはしっかりしてほしい。
- 思っていることを自分から伝えてほしい。
- 仕事への意欲を持ってほしい。

↓  
< 保護者の願い >

- あいさつや返事など基本的なことはしっかりできるとともに、自分のことは自分でしてほしい。
- みんなと仲良く過ごし、かわりが広がってほしい。
- 自分の思っていること、考えていることを積極的に言葉にしてほしい。

教育的ニーズを語る会 (平成14年5月)

- ・ 人とのかかわりを大事にし、場や状況に応じたかかわり方 (言葉遣いなど) について取り組んでいく。
- ・ 照れや緊張からなかなか自分を表現できないのは、経験によるものが大きい。環境の設定、授業などをとおして継続的な取組をしていきたい。
- ・ 体調面も踏まえ、自分で伝えることの大切さを意識できるようにしたい。

保護者のコメント

「家でも思っていることを言ってくれたらいいな」  
「みんなの前では恥ずかしがりますね。でも授業でやったことは自信を持ってできるですよ。」

重点指導目標の設定

自分の考えや思いを伝えることができる。

[設定理由]

本児は、分かっているのにできない、しないということが多く見られる。これは、照れや緊張とともに、やり方が分からない、意識が薄いなどに要因があると考えられる。自分の考えや思いを伝えるためには、定型のあいさつや文 (自己紹介や会長あいさつなど) で、簡単な文章の作り方が分かり、それを読むことがまず必要ではないかと考える。また、自分は何を伝えたいかを文章にまとめるにはメモをとることも必要である。本児は、文章を作る、しっかり読むことが苦手である。そこで、国語の授業などで、上記のような取組をすることで、基礎的な力を身に付けるとともに、相手に伝えるにはどうしたらいいかを知ることができるようにしたい。そのことで、自信を持って人前で発表したり、会話を楽しんだり、他の場面にもつなげたりしていきたい。人とのかかわりを大事にしながら取り組むことで、場や状況に応じて自分を表現することができるようにしていきたいと考える。

1学期の指導経過

<目標設定の話の中で>

短期目標 1

定型のあいさつや文を改まった場面で言うことができる



保護者のコメント

「まず、言い方が分かるのが一番ですね。」

[指導場面 1] 授業・・・国語

国語は、実態に応じた3グループで編成。Cグループに在籍。

Cグループでは、相手や場に応じて適切にかかわることができるよう意思伝達の力を身に付けたり、生活の中に用いられている言葉についての理解を深めたりすることをねらっている。

[指導場面 2] 特別活動・・・児童生徒会活動

本児は、2月の選挙で児童生徒会会長になった。活動は全校朝会の進行、行事などでのあいさつで、人前で話す機会が多い。

指導内容及び 指導の経過等	本児の変容等
<p>国語・・・「読んでみよう、話してみよう、書いてみよう」の題材の中で</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 毎時間、みんなの前で本を読む。</li> <li>○ 自己紹介をする。</li> </ul> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">本読みに関しては、読みやすいものにし、次に「正しく書こう」の題材の中で、特殊音のある言葉の学習をし、書いたものを読む活動を多く取り入れた。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">自己紹介に関しては、まず定型の言い方を教えるなど、できる状況づくりに努めた。</p> <p>児童生徒会活動・・・全校朝会、各行事(特に運動会)の場面で</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全校朝会の進行、あいさつなど</li> <li>○ 運動会では会長あいさつ</li> </ul> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">定型の言い方など文章にし、発表できるようにした。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初のうちは読むことに抵抗があった。 →漢字や拗音、促音、長音などの交ざった文章に抵抗があった。(書いたものを読む活動を増やすことにした。)</li> <li>・本読みを何回か続けることで、みんなの前でも大きな声でできた。</li> <li>・宿題に積極的に取り組み、書いたものを自分から読んで聞かせてくれることも増えた。</li> <li>・国語の授業の中では、照れや緊張が少しはなくなり、読むことに抵抗が少なくなった。</li> <li>・自己紹介は何を言うかが分かっていたので、スムーズ発表ができた。</li> <li>・朝会には遅れる(登校の関係で)こともあったが、自分の役割として意識し、定型の言い方だったので、しっかり発表できた。</li> <li>・運動会では、教師と一緒に文章を考える中で自分の言いたいことを定型の言い方でまとめ多くの人の前で堂々と発表できた。 →自分でも考えた文章なので、自信を持ってできた。</li> </ul>



< 授業や児童生徒会での取組が他の場面では・・・>

- 現場実習初日のあいさつがしっかりできた。実習中は指導員や利用者の方と恥ずかしがらずに話げできた。

※現場実習での評価・・・人とのかかわりはうまくいっていた。明るく、人なっく、周りを和ませることができた。ただ、場や状況に応じた言葉遣いには少し課題が残った。

評価 ……教育相談（7月末）

[目標の到達度 A]

体調が良かったこともあり、積極的な面が随所に見られるようになった。できそうなことに対し、できる状況づくりをしたことによって、自信を持って取り組めたのではないかと思われる。人前で発表することには慣れたが、自分で考えたこと、思ったことを素直に出すまでには至っていない。

そこで、2学期は分かりやすく伝えることの大事さが意識できるような取組をしていきたい。

保護者のコメント

- ・国語の時間でやったことが宿題でも出て、家庭でも少しはやる気を見せていた。
- ・やっていることを教えてくれず、自分の気持ちを伝えてほしいのだが・・・親の前では照れがある。
- ・児童生徒会会長の役割を負担に感じていると思っていたが、プライドが高いのか、自分の役割として責任を持っていることをうれしく思った。運動会での原稿を読む練習を夜遅くまで兄を前にしてやっていた。



2学期の指導経過

短期目標 2

相手に分かりやすく伝えることができる。



<学部の教師から>

国語の「調べて伝えよう」は指導場面として最適では・・・

< 目標設定の話の中で>

保護者の  
コメント

「自分の好きなこと  
だったら、進んで  
伝えようとするのでは  
ないですか。」



指導内容及び指導の経過等	本 児 の 変 容 等
<p>国語・・・「調べて伝えよう」の題材の中で</p> <p>○ 自分で調べたい項目をニュースにまとめ、発表する。</p> <p>調べたいものを自分で選択することで、興味を持たせ、意欲を高めるようにした。</p> <p>調べ、まとめる活動では、メモをする、伝えたい内容は何かを一緒にすることで、活動への見通しと自分でもできるという自信を持つようにした。</p> <p>何度も読む練習をし、自信を持って発表できるようにした。</p> <p>発表場면을TVのニュース番組のように設定し、ビデオに撮影することで、楽しい雰囲気味わえるようにした。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2学期当初は欠席があり、学習内容を理解するのに時間が掛かった。</li> <li>・ ニュース（特にサッカーを中心にしたスポーツ関係）への興味は高く、自分から調べてみようという意欲がかなり見られた。</li> <li>・ 教師に聞いてメモをすすんでとったり、何を伝えようかと本児なりに考えようとしたりする姿が多くなった。</li> <li>・ まとめ方についてはまだ教師と一緒にすることは多かった。</li> <li>・ 何度も繰り返し読む練習をすることで、慣れてきたのか、自分から進んで発表しようとする姿が見られるようになった。</li> <li>・ 実際にニュースキャスターに扮することで、分かりやすく伝えようと、大きな声でゆっくりと話すようになった。</li> <li>・ 授業は楽しいと話し、次は何を調べようかと意欲的な姿が見られた。</li> </ul>



＜ 国語での取組が他の場面では・・・＞

- サッカーの本を自分で買いに行き、家で読んでいた。
- 家で、好きなテレビをビデオに録画したり、CDを録音したりするとき、必要なことはメモするようになった。
- 今まであまり見ていなかったニュース番組を見たり、新聞を見たりするようになった。

保護者のコメント（下校時の話の中で）

「自分から買いたい物を伝え、それを買うために必要なお金を調べたり、お金をもらって買物したりするようになっていきますね。」



[指導場面2]・・・生単の授業「将来の生活」の中で

指導内容及び指導の経過等	本児の変容等
<p>生単「将来の生活」の单元の中で</p> <p>○職場での決まり</p> <p>前回の実習のときの様子を話し、自分で考える機会を与え、そこで自分の気を付けることを発表できるようにした。</p> <p>○壮行会</p> <p>発表の仕方を知り、練習を繰り返し、分かりやすく伝えることができたと感じられるようにした。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ここでは、卒業生の生活を知ることなどから自分の卒業後の生活を考えていったので、これまでの実習から「〇〇〇」に行きたいと自分の希望を口にした。</li> <li>前回のことを思い出し、「あいさつや返事をしっかりする」「言葉遣いに気を付け、仕事を頑張る」と自分で考えた発表ができた。</li> <li>自分の実習先、頑張ることなど、みんなの前でしっかり発表できた。また、みんなを代表して掛け声を少し照れながらもできた。(自分で発表する内容は考えて)</li> </ul>



＜生単での取組が実習先では・・・＞

- あいさつや返事、言葉遣いで実習先からA評価をいただいた。
- みんなと仲良く話げできた。
- 仕事の時間と休み時間の区別がしっかりついていた。
- 体調が悪いとき、指導員に伝えることができた。

保護者のコメント (実習後の進路相談で)

「あいさつや返事、言葉遣いでいい評価をいただけてうれしい。本児なりに意識してできたと思う。これが卒業後にもつながってほしい。」

評価 ……教育相談 (12月初旬)

[目標の到達度 A]

授業の場面では、意欲的な姿が見られ、分かりやすく伝えようと努力していた。3学期を迎え、今後も他の場面でも生かされるように、会話の広がり視点を置いた国語の授業に取り組んでいきたい。

保護者のコメント

- ・授業のことが楽しいようで、家でも「調べて伝えよう」の話をしてくれました。
- ・何よりも学校以外のところで、少しずつだが、自分を出してくれているのはうれしい。特に実習の評価は、うれしいやら、びっくりするやらです。

### 3 まとめ

個別の指導計画のシステムによる本児の取組から以下の点について知見が得られた。

授業で取り組んだことは他の場面でも生かされています。

自分の役割である児童生徒会活動や好きな授業である国語、生単の時間を通して取り組んだことで、本児の意識は少しは高まった。個別の指導計画から意思の伝達のニーズが挙がってきて、授業で取り組んでいったことが、家庭生活や他の場面にいかに移行できていくかを、常に考えるようにしてきた。

授業で取り組んだことは、確実に家庭や実習先でも成果として現れている。

保護者と話し合う中で深まっています。

教師と保護者と「相手に伝える」という同じ願いのもとに取組が行われた。体調面のこともあり、家庭でも自分の体の調子などうまく伝えてほしいと考えていたことから（学校でもそうであった）、伝えるということに関して協力して取り組むことができた。授業での取組を宿題という形で家庭でも取り組んだので、今まであまり学校のことは話さなかったのが、少しずつ話してくれるようになった。また、体の調子がよくないときは帰りに迎えに来てくれるよう頼むことも出てきた。これは、発表する場面で本人が少しずつ自信を持ってきていること、自分で考えて伝える必要性を意識できてきつつあることのだが、家庭と一緒に取り組んでいこうという姿勢で臨んだことが一番の要因であった。

学部の教師との話は大事です。

今回の取組で授業（国語）では、進路係と担任が担当したことで、情報の交換、共通の取組ができた。また授業に関して、他の教官からも国語以外での場面での様子や取組について情報が得られ、連携を図ることができた。

### 4 今後の課題

この取組を通して、本児の意識はかなり変わってきて、自分のことを積極的に話すようになってきた。ただ、これが卒業後の生活でどの場面にもつながるような取組、働く生活、家庭生活、余暇生活にうまくつながっていくよう、整理していかなければならない。

本児は卒業後は、授産施設で働く生活を送る予定である。体調面に気を付け、人とのかかわりを大事にしながらか生活していくことを望む。学校で学んだことを卒業後の生活につなげていくために、また高等部として大切にしている移行を踏まえた取組を継続、総括していくためには、指導の継続性が大事になってくると考える。

（文責：大山 隆）



## 事例B

学校の内外でよさを生かし自信を育てることを目指した取組

### 1 対象児について

S・S児（高等部3年生 男子）

#### (1) 障害の状態

知的障害，急性脳症（2歳）

#### (2) 諸検査結果から

全訂版田研田中ビネー知能検査，S-M社会生活能力検査（平成14年5月30日実施）

- ・ 言語性の問題で抽象的な思考を要するものは苦手である。
- ・ 意思交換や自己統制に発達上の課題が見られる。

#### (3) 「卒業後の生活」についての本人や保護者の希望

- <働く生活> 自宅から福祉施設に通所し，農耕など得意な体を使う仕事に従事してほしい。
- <家庭生活> 家族と仲良く暮らしてほしい。
- <余暇生活> 何か一つ楽しみを見つけて打ち込んでほしい。

### 2 指導の経過

実態把握（平成13年4月～6月）

#### 学 校

（行動観察，諸検査，これまでの取組状況等）

- ・ 自己イメージが低く，失敗を恐れる気持ちが強い。
- ・ 発達上の課題である言語理解や，状況把握の困難さ等から，新しいことに対する見通しが持ちづらく，不安が先に立ってしまう。
- ・ 細かい作業は苦手を持続力に乏しいが，力仕事など体全体を使った作業は得意であり苦にせず取り組む。



#### 教師の願い

（学部ミーティング）

- 自信を持っていろいろなことに積極的に取り組めるようになってほしい。
- いろいろな相手と積極的にかかわることができるようになってほしい。
- 「仕事」に対する意欲を持ってほしい。

#### 家 庭

（家庭訪問，生活スケジュール，生活地図，生育歴等）

- ・ 青年期の自我の芽生えもあり，両親に反抗的だったり，気に入らないことがあると家族に当たったりする。
- ・ 家庭の中で決まった役割を持っていない。
- ・ 余暇時間をうまく使えず時間を持て余すことが多い。
- ・ お店や病院など一人で出掛けることがほとんどない。



#### 保護者の願い

- 家族と仲良く過ごしてほしい。
- 何か一つ好きなことを見つけてほしい。
- 集中して一つの物事に取り組むようになってほしい。

教育的ニーズを語る会（平成13年7月）

学 校	家 庭
<p>いろいろなことに積極的になってほしい。</p> <p>まずは成功経験を積んで自信を持たせることが大切だと思う。よさを生かしたい。</p> <p>スポーツを生かした取組をしていきたい。</p>	<p>内弁慶で一人で行動したり，知らない人と接したりするのが苦手。</p> <p>体を動かすことが好き。</p>
<p>言語や場面の理解に課題があることも大きい。</p> <p>分かりやすく伝える工夫をしたい。</p>	<p>初めての行事は不安が大きく登校を渋る。</p> <p>簡単ことでも実は分かっていないことがある。</p>

重点指導目標の設定（平成13年9月）

得意なことであるスポーツの取組を通して自信を育てることで，いろいろな場面で積極的に行動できるようにする。

【設定理由】

本児は活動欲求やコミュニケーション意欲は持っているものの，いろいろな場面において，自分で判断して行動したり，他者に進んで働き掛けたりすることが少ない。そのため，活動や対人関係が限定されており，本来持っている力を十分発揮できないでいる。

これらは，本児が言語や場面の理解に課題があることや，経験不足に加え，自己イメージが低く，何事にも自信が持てずに失敗を恐れる気持ちが強いことによるものが大きいと考える。

このようなことから，本児が得意なスポーツに取り組むことで，成功経験を積み重ね，自信を育てるようにしたい。本児にとってスポーツは自信を持って行える少ない活動の一つである。体育の時間は生き生きと活動する姿が見られ，休み時間に教師や友達に誘われてサッカーをするのを何より楽しみにしている。また，スポーツは勝敗や記録が明確であるため，自分の力を確認し，自己評価につなげることができる。このようなことから，この取組を通して，本児の自己イメージを高め，他の場面においても「できること」を増やすとともに，積極的に行動したり，かわりを広げたりしていけるものとする。

第Ⅰ期（平成13年9月～平成14年3月）の取組状況

興味・関心が高く，意欲的に取り組んだ。

力仕事など得意なことは進んで行う姿も…。

ゆうあいスポーツ大会（障害者スポーツ大会）県大会に出場決定！！

学部ミーティング（平成14年5月）

KJ法的手法を用いて学部教官による本児のニーズの集約を行った。

重点指導目標については昨年度の取組を引き継ぐ。

よさやできることを全ての授業で生かしていく。

役割意識の向上やコミュニケーション場面の拡大を図っていく。

教育的ニーズを語る会（平成14年5月）

学 校	家 庭
スポーツ大会の話題を自分から教師にすることも。 大きな自信になったようだ。	当日「行かない。」というんじゃないかと心配していたがゆうあいスポーツ大会地区予選に出場できてほっとした。
友達とのかかわりが増えている。得意なことでは積極的に行動することも…。	登校を渋ることが少なくなった。不安は減っている。

重点指導目標を継続していくことを共通理解する。

第Ⅱ期（高等部3年1学期）の指導経過

短期目標1

友達や教師とともに練習に取り組み、ゆうあいスポーツ大会（障害者スポーツ大会）県大会に出場することができる。

指導場面

〔指導場面1〕 授業「チャレンジ体育 ランナーコース」

高等部では、週3単位時間の体育の授業を、体を動かすことの楽しさを知り、余暇活動につながる運動を取り入れた「レクリエーション体育」と基礎的・基本的な体力の向上と目標を意識して取り組むことを目指した「チャレンジ体育」で編成している。

〔指導場面2〕 課外活動「トレーニングクラブ」

トレーニングクラブは、継続的に運動することを通して健康な体づくりや、友達とともに運動することの楽しさを体得することを目的とした課外活動である。基本的に自主下校が可能であり、障害者スポーツ大会陸上の部への出場を前提とした生徒を対象としている。本年度は1年生から3年生までの6名が所属している。

指導内容

- ・ トレーニングクラブの曜日表を提示することで、見通しを持ち、進んで参加できるよう

にする。

- ・ トレーニングクラブの出席表を付けるようにすることで、自分の頑張りを確認できるようにする。
- ・ トレーニングクラブで役割を持つことにより、仲間意識や役割意識が持てるようにする。
- ・ チャレンジ体育で毎回タイムを計り、前回に比べてどうだったかを伝えることで、自分の記録を意識したり、練習への意欲を高めたりすることができるようにする。
- ・ 頑張っていることを学部朝会やホームルームで紹介したり、家庭で話題にしてもらったりすることで、他者に認められる経験ができるようにする。

	指導の経過	本児の変容
4月	○チャレンジ体育（ランナーコース） ○トレーニングクラブ <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">           曜日は本児の目に付きやすい教室の掲示板に張るようにした。         </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今日が何曜日かわからず、トレーニングクラブがあるかどうかはつきり分かっていない。友達に言われて体操服に着替えることが多い。</li> </ul>
5月	<div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">           出席カードはコーチ（教師）からシールをもらって自分で張るようにした。         </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ トレーニングクラブで友達からキャプテンに選出される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出席カードは自分でコーチ（教師）の所に持っていくシールをもらうことが習慣化される。</li> <li>・ キャプテンに選ばれたことは喜ぶが、自分の役割を意識するまでにはいっていない。</li> <li>・ 前回よりタイムが良かったことを伝えると笑顔を見せる。しかし、日によって手を抜くこともありより良いタイムを出そうという意識は見られない。</li> </ul>
6月	○ゆうあいスポーツ大会県大会出場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県大会は当日朝「行かない」と言うが、家族に説得されて出場し、3種目でメダルを獲得する。スタートが遅れても必死で追い上げようとする姿が見られた。全校朝会でのメダル授与式では全校生徒の前で「頑張りました。」と報告できる。</li> </ul>
	○校内実習 ○前期産業現場等における実習 (通所授産施設A園)	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           実習課題（学部ミーティング）            ・ 作業内容や一日の生活に見通しを持ち、できるだけ自分から行動できるようにする。         </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 産業現場等における実習初日の朝、通勤を渋り担任が家庭訪問する。実習が始まると指導員や友達とのかかわりが楽しく、進んで通勤できた。実習後の進路学習では「卒業したらA園に行きたい」と言う。</li> </ul>
7月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           実習個人票（実習先へ）            ・ 作業学習で農耕をしており、体を動かすことが好きである。            ・ 作業内容等できるだけ具体的に伝えてほしい。         </div>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">           実習日誌・評価表（実習先より）            実習中は自分から動くことは少なく指導員の方の後を付いて回ることが多かったが、指示されたことには一生懸命取り組んだ。農耕作業では生き生きとしていた。友達に優しい面が見られた。         </div>

## 評価

### 〈目標の到達度 A〉

途中、実習が入ったことにより継続した取組は難しかった。しかし友達と一緒に好きなスポーツに取り組むことは楽しみになっていた。県大会に出場しメダルをもらったことは大きな自信になり、人前で話すことへの抵抗は減ってきている。また、学級の内外で友達と大声でやりとりする姿が見られるようになり、少しずつかわりも広がってきている。

2学期は全国大会の出場が決まっており、本児にとっては具体的な目標が持ちやすいといえる。さらに、より主体的に活動に取り組むことができるように、タイムの向上などの短期的な目標を設定し目的意識が持てるようにしたい。

### 保護者のコメント

・県大会に出てメダルをもらったことはとても自信になった。弟も「お兄ちゃん、すごい！」と喜んでいて。全国大会に出場することになり、父も張り切っている。

・家族に不機嫌に当たることは今もあるが、ずい分抑えられるようになった。後で「僕が悪かった。」と言ってくるなど変化が。

・困ったときに自分から言えるといいんだけど……。



## 第Ⅲ期（高等部3年2学期）の指導経過

### 短期目標2

よりよい記録を出すことを意識して、友達や教師とランニングの練習に取り組むことができる。

### 指導場面

〔指導場面1〕 授業「チャレンジ体育」

〔指導場面2〕 課外活動「トレーニングクラブ」

### 指導内容

- ・ トレーニングクラブの曜日表示を提示し、登校後教師とともに確認することで、見通しを持ち、進んで参加できるようにする。
- ・ 定期的にタイムを計り、グラフにすることで、自分の頑張りを確認し、よりよい記録を出そうという目的意識を持つことができるようにする。
- ・ グラフや曜日表示の見方については、数学等他教科との連携を図っていく。
- ・ トレーニングクラブでキャプテンとしての仕事（号令や準備体操）を繰り返し行うようにし、自覚が持てるようにする。
- ・ トレーニングクラブで余暇活動を計画し、仲間意識を深めるとともに、週末の余暇活動の充実につなげることができるようにする。

- ・ 頑張っていることを学部朝会やホームルームで紹介したり、家庭で話題にってもらったりすることで、他者に認められる経験ができるようにする。

	指導の経過	本児の変容
9月	<p>○チャレンジ体育（ランナーコース）</p> <p>○トレーニングクラブ</p> <p>係活動で毎日の日付を黒板に書くようにして日付の意識付けを図った。また、登校後日付やクラブの有無を教師と確認するようにした。</p>	<p>・ 毎日日付を確認するようにしたことで曜日の理解ができるようになった。クラブのある日は自分から着替えたり、教師に促されてコーチ（教師）に聞きに行ったりした。</p>
10月	<p>タイムのグラフの見方が難しかったので、グラフを3段階に色分けし、金色のゾーンが目標タイムであることを意識付けた。</p> <p>・ 学校の近所の歯医者に一人で行く練習をする。</p> <p>歯医者には最初は教師も同行し、少しずつ支援を減らしていった。受付での対応が難しいので予め病院と打ち合せをし、来院したらすぐお金と診察券、通院できる日時を書き込んだカレンダーを受付に渡すようにした。</p> <p>○後期産業現場等における実習 (入所授産施設B園)</p> <p>実習課題（学部ミーティング）</p> <p>・ 入所生活の中で一日の生活に見通しを持って自分から行動することを増やす。</p> <p>・ 連絡や報告をしっかりとる。</p>	<p>・ 教室に張ってあるグラフを何度も見に行く様子が見られた。目標タイムは理解できなかったが、グラフの金色のゾーンが目標であることは意識できた。</p> <p>・ 歯医者 of 玄関前で長い間うろうろしていたこともあったが、数回の練習後一人で行けるようになった。</p> <p>・ 全国大会の選手団の自主トレーニングに参加。他校の生徒や施設の人たちの中に入り、学校よりハードな練習に黙々と取り組む姿が見られる。</p>
11月	<p>実習個人票（実習先へ）</p> <p>・ 作業内容や日程等できるだけ具体的に伝えてほしい。</p> <p>・ 慣れた相手や場面であれば自分から伝えようとすることもある。</p> <p>・ 学校では、まずは簡単なことを繰り返し行い自信を付けるようにしている。</p>	<p>実習前には「友達ができるかなぁ？」と心配していたが、女の子のファンもできて人気者になる。入所は楽しく、1週目の週末の帰省後も嫌がることはなかった。</p> <p>実習日誌・評価表（実習先より）</p> <p>入所生活では友達と行動し特に問題となる場面はなかった。自分から仕事に取り組んだり、「何をすればいいですか？」と聞いたりすることはなかったが、作業中に担当の指導員の所にやってきて「不良品です。」と伝えることができた。</p>
	○全国障害者スポーツ大会（高知）	・ 他学部の教師に自分から「明日高知に行きます。



		陸上の部50m, 100m出場	頑張ります。」と話し掛ける。
12月		○休日にトレーニングクラブで食事（焼き肉）とボウリングを計画する。	・大会では入賞できなかったことやリレーの選手に選ばれなかったことで落ち込んだが、頑張り賞のメダルを学校に持ってきてみんなに見せていた。大会の写真は本人の宝物になった。

### 評価

#### 〈目標の到達度 A〉

全国大会の出場は大きな目標として意識できていた。練習にも以前より熱心に取り組むようになり、自己ベストを更新した。また、全国大会に出場したことで、多くの人との出会いや新しい経験を重ね、たくましさが見られるようになった。授業や実習先でこれまで苦手だったことでも自分から行動する場面が増えてきている。

一方、全国大会後は遅刻が増えるなど気持ちが入らない面も見られた。卒業を控え、進路指導と兼ねながら、社会人としての自覚を高めるようにしていきたい。

#### 保護者のコメント

- ・全国大会は学校からたった一人の参加で、全国のレベルとの差もあり、戸惑いや不安などいろいろあったようだ。しかし、本人なりによく頑張ったと思う。
- ・いろいろな面で積極性が見られるようになり、入学当初からすると、大きく変わったと感じる。



### 3 まとめ

個別の指導計画のシステムによる本児への取組から以下の3点について成果が得られた。

#### 個別の指導計画は「生徒のよさやできることを生かす」

高等部では以前から生徒の「よさやできること」を生かす取組を行ってきた。本取組では、出席表やグラフ、学部朝会等での報告会など通して、自己評価の機会を重視し、自己イメージを高めるようにしてきた。これから社会に巣立っていく本児にとって、自分の「よさやできること」知ること、今後自分なりに課題を解決していこうとする意欲につながると思ったからである。

高等部になると生徒の興味・関心や個性が一層多様化してくる。また、卒業後はそれぞれ自分に合った進路に進み、異なったスタイルの生活を送ることになる。個別の指導計画は、一人一人の生徒のよさやできることを見い出し、指導内容や指導方法に生かすとともに、多種多様な「卒業後の生活」に応えるために大きな役割を果たすものである。

#### 個別の指導計画は「家庭と学校を一つにする」

教育的ニーズを導くために、まず家庭と学校がお互いの考えを出し合い、すり合わせる作業を行った。その過程において保護者の「何か一つ好きなことを見つけてほしい」という願いと教師の「自信を持ち、積極的に行動できるようになってほしい」という願いの目指す方向が一致したことで、この取組が行われることになった。もともと保護者自身が本児の得意なこと、苦手なことをよく理解しており、運動の能力を生かしたいと考えていたことから学校と家庭が同じ目標に向かって協力

することができた。スポーツ大会を目標においたこの取組では、学校の中だけでなく学校外での自主的な活動も多かった。家族全員で本児をサポートしていこうとしたことは、本児の精神的な成長にとって大きな要因になったと考える。

#### 個別の指導計画は「教師チームを生かす」

高等部は教科担任制であり、学級の枠を越えた指導が行われている。教師がそれぞれの専門性を生かし、チームとして働くことでより効果的な指導が期待できる。本取組では学部ミーティングにおいて全教師が重点指導目標を共通理解し、主な指導場面として「チャレンジ体育」と「トレーニングクラブ」を設定した。担任は必要に応じて他教科の担当と情報交換を行い、連携をとることで指導内容の工夫や改善を行っていった。例を一つ挙げると、チャレンジ体育で体育担当の教師がタイムを計り、担任が数学担当の教師から情報を得て、グラフを作成し本児への意識付けを行うといった取組が行われた。

#### 4 今後の課題

本児は卒業後、通所の授産施設で働く生活を送る予定である。これまでと全く異なる環境の中で、今後は自分自身で自分の「よさやできること」を発揮していくことが望まれる。家庭や学校の中だけでなく、職場（進路先）や地域においても、自分の力を発揮していくことができるように、まずは学校や家庭が友達との余暇活動を計画したり、学校で学んだことが生かせる場面を設定したりするなどの実際を想定した取組が重要になってくると考える。さらに卒業を間近に控えていることから、移行支援のシステムにつなげるために、これまでの取組を総括し、何を引き継いでいくかを整理していく必要があると考える。

（文責：藤上 実紀）



## 事例C

「個別の指導計画」の成果や課題を、卒業生個表で進路先へ伝え、「アフターフォロー」で支える縦への移行に関する取組

～ 福祉施設で働くAさんの事例を通して ～

はじめに

本校では、進路先へ「縦への移行」がうまくいくように2つのことに取り組んでいる。

- 本人の様子を伝えるために卒業前に作成する「卒業生個表※」
- 卒業後の本人を支える「アフターフォロー」

本事例では、この2つを取組を通して、「個別の指導計画」の成果は、『卒業後の生活にどのように伝えられ、活かされているか』を検証することにした。

( ※卒業生個表については、P〇にも別途記載。 )

## 1 対象の卒業生について

### (1) 概要（在学時の様子）

男性。ダウン症。中度の知的障害。だいたいの身辺自立は確立。幼少児はやや病弱だったが、現在は定期検診を受けているものの、おおむね元気である。自宅は、学校から4キロほどある団地にあり、一人でバス通学していた。

学習全般については、真面目に取り組み、性格も明るく、友人とのかかわりは多かった。自宅では一人でテレビ・工作などを楽しむことが多いが、週1回スイミングスクールに通っていた。

### (2) 保護者の願い（教育的ニーズを語る会から）

卒業後の進路は、自宅から福祉施設に通所することを希望していた。母親は、本人が健康で楽しく過ごせることを最優先としながらも、社会人としてもう一回り大きく成長することを望んでおり、具体的には、人と接する際の態度や作業面全般の力の向上、家庭内で一人でできる家事の習慣化などを期待していた。

## 2 在学中の取組

「個別の指導計画」で重点的に取り組んだことを、卒業後の生活とのつながりから「働く生活」「家庭生活」「余暇生活」の、三つの生活から見ていくことにした。なお、(1)での本事例の個別の指導計画の取組は、昨年度までのシステム・書式に基づいており、他の事例と一部異なる。

### (1) 働く生活について

願う姿	具体的に取り組んだこと	
指示や説明を素直に受け入れながら、自分の持てる力を発揮して行動できるようになってほしい。	学	・ 作業時は定型の言葉掛けを進んでする。 ・ 作業の準備を進んでする。
	校	・ 朝は時間の遅れないよう登校する。 ・ 製品や材料を10個程度は正しく数える。
	家	
	庭	

(2) 家庭生活について

願う姿		具体的に取り組んだこと	
一人でできる家事を身に付け、進んでできるようになってほしい。		学 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>洗濯物を畳む。</li> <li>食事の際のマナーを身に付ける (姿勢を崩さない・器に手を添えること)</li> </ul>
		家 庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>メモを使って買物</li> <li>食事の準備(皿、箸並べ、お茶入れなど)</li> <li>洗濯物を畳む。</li> <li>食事のマナー(姿勢・器に手を添える)</li> </ul>

(3) 余暇生活について

願う姿		具体的に取り組んだこと	
一人で楽しめる余暇活動を身に付けたり、外出して買物を楽しめるようになったりしてほしい。		学 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>バスでデパートや公共施設に出掛ける。</li> <li>自宅に電話を掛ける。</li> <li>買いたいものを計画を立てて買物する。</li> <li>紙幣の区別をする。</li> </ul>
		家 庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>バスで一人で散髪屋に行ったり、通院したりする。</li> <li>近所に一人でおつかいに行く。</li> </ul>

(4) 重点目標に関する主な経過や変容

日ごろから大人として扱われると活動意欲が高かった本人のよさを生かして、学校では下級生をリードしながら作業学習の準備等を班長の本人に任せたり、家庭は、母親の代わりに毎日の食事前にお茶を入れる役割を担うことなどに取り組み、力を高めていった。

また、バスの利用についても、生活への必要性を家庭と学校が共通に認識し、在学6年間でステップアップしながら取り組んだので、母親とバス通学の練習から始めた本人が、卒業時には理髪店やかかりつけの耳鼻科、繁華街での買物まで一人で行けるようになり、行動範囲、活動内容もずいぶん広がっていった。

食事面でのマナー等は、有効な手立てを講じることができず、改善されなかった面もあった。

3 卒業時に当たり

卒業が近付き、本人が進路先で、在学中の成果を発揮したり、より適切な支援を継続して受けられるよう「卒業生個表」を作成する時期になった。そこで、「教育相談」の中で保護者・担任・進路担当で、卒業後の支援について話し合い、以下のような点を確認した。

(1) 福祉施設へ就労に向けて

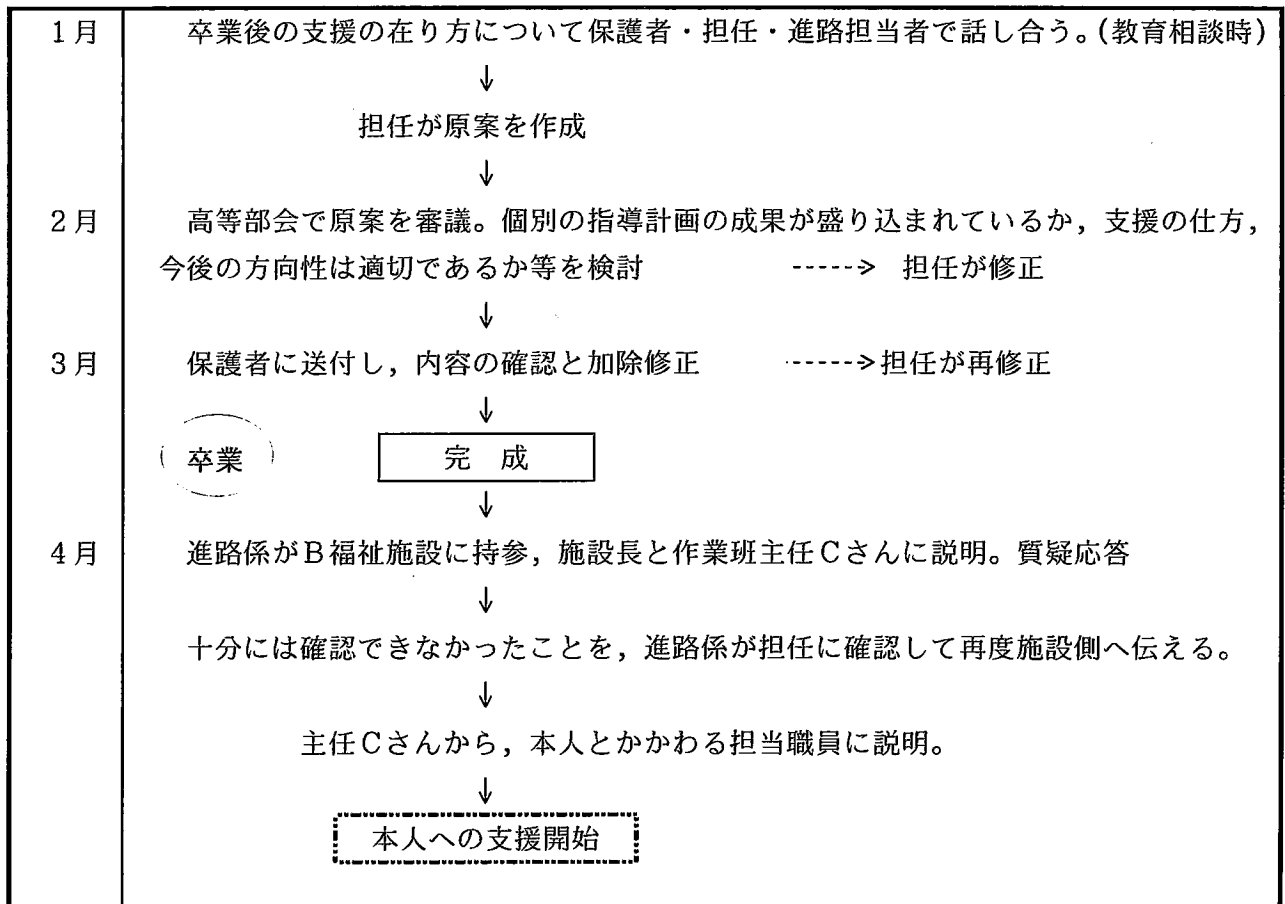
- 健康・生活面での配慮は必要な生徒だから、きめ細かな状態像や支援の仕方の情報を学校からしっかり伝える。また、それを確認するために、学校は進路先を訪問してのアフターフォローを行う。

- ② 進路先では在学時と同じ作業種目の農耕班をすることになる。ある程度生かせる面もあると思われるので、学校から身に付けた態度・技能等はしっかり伝えたい。
- ③ 保護者は、将来的には、更にレベルアップして授産施設等で活躍することも期待している。実際に移行できそうな時期がきたら、保護者は学校に相談することを希望している。また進路先となる福祉施設にもそういった方向性のある支援を学校からもお願いする。

(2) 社会人として過ごす家庭・余暇生活に向けて

- ① 家庭では自分の役割を果たし、社会人（大人）としての意識をしっかりと持てるよう、食事の準備や洗濯物畳みなどの取組は保護者が言葉掛けして習慣化していきたい。
- ② 単調な毎日になりがちなので、休日は、外出などで気持ちをリフレッシュできるよう保護者が促していく。また、一人でバスで出掛けることができるようになりつつあるので、さらに発展させることができれば、余暇が豊かになるのではないかと。
- ③ 一人で楽しむことが難しいようであれば、学校の担当者が青年学級への参加なども呼び掛けていくようにする。

以上の点を踏まえて、下記の流れで、本事例の卒業生個表を作成し、進路先に伝えた。



## 4 卒業後の生活から

### (1) 「働く生活」について

	Aさんの様子 「 」内はB施設の職員の言葉	アフターフォロー 「 」内は学校からの情報提供
4月	「まだ、何をしたらいいのかよく分からないようですね。みんなと草取りをしていますが、ちょっと元気がありませんね。それと、学校ではどんな用具も使っていましたか」 (農耕班担当職員Dさん)	○ 本人のフォローのために訪問 「一人でするより、職員とペアの形で取り組むとやる気が持てたようですよ。それと、鍬を使ってうねをたてることもよくできますよ。」
5月	「担当のDさんと一緒に作業をするようにしたら、ずいぶんやる気が違ってきました。」(主任Cさん)	○ 在学生の現場実習先として訪問。様子を尋ねる。
6月	「ハサミや鍬など農具を使う作業は集中して取り組むことができますね。」 (Dさん)	○ 本人の件で訪問。様子を尋ねる。
7月	「毎日の作業に疲れてきたのか、午後はあまりしないことが多くなってきました。それから、一人になるとやっぱり仕事は進みませんね。」 (主任Cさん)	○ 現場実習先として訪問。 「学校の作業学習は、半日程度ですから、まだ慣れないのでしょう。幼児期に煩った疾患で定期検診も受けていますので、しばらく様子を見てください。一人でも仕事をしっかりすることは、これからの大きな課題ですね。」
8月		
9月		
10月	「登園時に嘔吐気味の行動をすることが多いようです。職員の気を引こうという感じもしますが、学校ではどうでしたか。」(主任Cさん)	○ 現場実習先として訪問。在学時の様子や対処について旧担任に再確認し、伝える 「在学時にもそんなことはありました。実際に嘔吐することはほとんどなかったようです。気分的な理由が多いので、本人が元気が出るような言葉を一言掛けてみてください。」
11月	「(嘔吐は) やっぱ時々はありますね。言葉を掛けると元気が出るようですし、精神的なものなのですかね。」 (主任Cさん)	○ 嘔吐の件で母親と電話で相談した結果を伝える。 「送迎車両での車酔いや鼻炎により痰がからむことも一因かと思います。」
12月	「一時期ほど嘔吐症状はなくなりました。」 (主任Cさん)	

## (2)(3)家庭・余暇生活について

### 【Aさんの様子（保護者の話から）】

『 ラーメン，食べたよ。』

この前，天文館（鹿児島市の繁華街）に一人で出掛けたとき，初めて一人でラーメン屋さん入って食べて帰ってきたんですよ。電話で「お母さん，今ね，ラーメン食べたよ。」と聞いたときはびっくりしました。

卒業して，夏ぐらいから，一人でバスに乗って出掛けることが何回かあるんですよ。

### 【その背景（個別の指導計画から）】

総合的な学習の中で，友達と一緒に計画を立てて，出掛ける取組は年間を通して行っている。Aさんも天文館での食事・買物は数多く経験しており，その一つとしてラーメンの外食にも挑戦していた。

『 もしもし，今から帰ります。』

一人で出掛けた時，「本屋さんに行ったよ。」「今からバスに乘ります。」とよく電話を掛けてきます。私も「ああ，そう。気をつけてね。」と返事をします。本人の元気な声を聞くことができ，親も安心です。

宿泊学習や校外学習など，外出した際に自宅に電話をする活動をたびたび行った経験によって自信と習慣が付いたようである。

『 お茶をします。』

毎日，食事の前はこの子がみんなのお茶をいれてくれます。母親がしていたことを自分ができるからうれしいんでしょうね。ふとんの上げ下げもほとんどしてくれます。

役割によって活動意欲がずいぶん高まるAさんのよさを生かし，それまでお母さんがされていた役割を「本人の仕事」として取り組んだ。

『 おみやげ 』

最近，一人で出掛けたとき，饅頭やサンドイッチなど，自分の小遣いでおみやげを買ってくるようになりました。買い物をしたり，家族が喜んだりするのがうれしいようです。

買物については，総合的な学習・数学などの時間に，中学部から高等部をとおして，多くの活動機会を持った。

## 5 Aさんに関する移行支援の検証

### (1) 「個別の指導計画」の成果は生かされているか

やっぱり，保護者と一緒に取り組んだことは，実を結びます。

- ・ 家事について「あれもこれも」ではなく，本人のよさを発揮できる長続きしそうなことを保護者との話し合いを基に絞り込んだこと，そして，学校の授業（コース別学習）でも合わせて取り組み，意識付けを図ったことが，卒業後の継続につながっている。
- ・ バス利用については，家庭では通院や散髪など生活に必要な場所について練習し，一方，学校では公共施設や娯楽施設，食事する場所について金銭の扱いも含めて出掛ける実践を行った。それらが，見事に実を結び，バスを使っての外出は，本人にとっても週末の大きな楽しみになっている。

もし保護者と学校が話し合うこともなく、実践の積み重ねもなかったらAさんは卒業後どんな生活を送っていたらどうか。「お母さんは、あれもこれも手伝って言うけど、テレビを見たいからしたくないもん。」「工作も飽きたし、休みの日って、つまんないな。何かしたいな。」というようなつぶやきが聞こえたことだろう。

個別の指導計画のシステムの中で、まず本人や保護者の声を聞き、それに基づいたAさんの生活に焦点化した取組であったから、このような成果があったと確信する。

「個別の指導計画」は、引き継ぐシステムあってこそその取組です。

Aさんの場合、在学中2年間農耕班、進路先でも園芸班だったこともあり、学校から個別の指導計画による成果を伝えやすく、また進路先も積極的に協力してくださったことが、今日の本人へのよりよい支援の一助となっている。

もちろん、Aさんの姿をとおして、こちらの指導の在り方を問い直す機会でもある。今後も進路先と学校が、双方向からよりよい支援を考えていくことができたらと思う。

改めて言うことでもないが、「個別の指導計画」は、実践するだけでなく、卒業後に引き継いでこそ、また卒業後の姿から改善を図って行ってこそ、有意義な取組になると考える。

## (2) 「卒業生個表」でうまく伝わっているか

「卒業生個表」は、進路先に浸透しつつあります。

今回の事例でも、学校からの情報が、進路先での生活に役立っている。

個表を進路先に送り始めて、6年になる。当初は参考程度に御覧いただくぐらいだったが、最近は細かく目を通していただくようになり、「待っていましたよ。やっぱりこういうのがあると助かります。」とか、「こういうことも載せたらいいんじゃない。」といった御質問・御意見を、多くの進路先からいただくようになった。また、進路先と連携していくには、毎年の積み上げで信頼を得ていくことが大切であると感じる。

本人の情報はきめ細かく伝えたいです。でも多ければいいというわけでも…

今回のケースでもあったことだが、一人分A4版4ページの卒業生個表を準備しても、必要な情報が抜けてしまい、説明にうかがった時に進路先とのやり取りから気付かされることがしばしばある。

もちろん、遺漏がないように作成することは大事だが、そのために資料が膨大になったり、不必要な情報までが流れてしまったりすることは避けたい。

「個別の指導計画」のファイルをそのまま進路先に送ることができたらと思いつけるが、現在は、試行錯誤しながら取り組んでいる段階で、年々書式も変わっている。本校では個別の指導計画の書式をそのまま進路先に移行できるようにしていくのは、もう少し先になると考える。

移行を支えるのは書面ではなく、周りの人たちですよ。

Aさんのおう吐症状とその対処については、卒業生個表に記載されていたが、B福祉施設を利用し始めて、半年ぐらいいはそのような様子ではなかった。今回、症状が見られた時に、当初、旧担任と相談しながら、在学時と同じように鼻炎から痰がからんでしまったり、生活リズム(夜



更かし) からくる疲れに因るものでは考えた。しかし、再度、母親やB学園の職員と相談する中で、学園への送迎車両での車酔いも一因ではと考え、そこに以前より配慮していただくことで、本人の立ち直りにつながった。

やはり、ベースとなる情報は共有しながらも、柔軟に対応できる支援体制を整えておくことが必要であると考えます。

## 6 今後の移行支援を考える

ここ数年、本校生の卒業後の進路は福祉就労がほとんどである。幸い、在学中全員が5回の外部での現場実習（基本的には毎回違う実習先にしている）を経験し、本人や家族が十分納得して進路先を選択・決定をしている。また微力ながらも前述のような、卒業生個表・アフターフォローの成果もあり、福祉施設との連携はかなり充実し、縦への移行は円滑に行われている。

一方、在学時に一般就労をめざす生徒もおり、一般事業所での現場実習をチャレンジしているが、なかなかステップアップしながら、雇用まで結び付ける段階には至っていない。

今後は、さらに個々の生徒の特性に応じた移行支援に取り組んでいきたいと考えている。

### 【すでに始めていること】

- 主に重度の方を対象して、実習や進路先への移行がスムーズに行われるように、支援の仕方をビデオで相互研修をしたり、担任が一日付き添いながら情報を伝えたりすること。
- 卒業後も、近い年代の仲間で楽しく余暇を過ごしたりすることができるような、本校独自の卒業生サークル「卒業生クラブ」を実施すること。

### 【これから新たに取り組んでみたいこと】

- 職員がジョブコーチ的な役割を担っての事業所での実習を組み、雇用と結び付けていくような方向性で進めること。
- まだ十分には連携が取れていない一般就労にかかわる諸機関とのつながりを検討し、移行に関するシステム作りを整えていくこと。 (文責： 福田 展大)



### Ⅲ

## まとめ

#### 1 個別の指導計画の作成と活用から得た知見

事例を通して、学校で取り組んだことが家庭、地域、実習先、進路先でどのように生かされてきたかがはっきりしてきた。横への移行、縦への移行を具体的にイメージすることができた。卒業後の方向性を明確にすることで、縦と横の移行が効果的に絡み合い、よりよい移行支援につながっていく。生徒一人一人のニーズにより、卒業後のライフスタイルは違ってくるが、個別の指導計画を作成し、有効に活用することによって、具体的な支援の在り方が導き出される。移行を踏まえた実践事例の研究で、教師間、家庭、実習先、進路先との連携を更に図っていくことの大切さが改めてはっきりした。

保護者との話し合い、取組が卒業後につながります。

教育的ニーズを導く（学校と家庭とのすりあわせ）中で、保護者の願いと教師の願いの目指す方向が一致した取組ができたことに成果がある。取り組む際に、連絡帳や紙面だけでなく、電話や下校のときの話、進路相談など、直接話をする機会を多く持つことで、一体的な取組につながったと考える。話はより具体的に情報を交換し、支援の在り方を一緒に考えるようにした。取組をとおして、家庭は協力的になり、生徒が変容して中で「次はこんなことに取り組んでいきたい」という保護者からの積極的な提案も出るようになった。卒業後の生活を踏まえ、どんな働く生活、家庭生活、余暇生活を送るか、生徒一人一人に応じた移行支援に取り組んでいくために、保護者との連携は大事なことであった。

実習先での経験は進路先にもつながっています。

実習では、卒業後の生活を踏まえ、個別の指導計画に基づいて課題を実習先に伝えている。実習先は卒業後の進路先も視野に入れて決めているので、卒業後の生活という観点で、実習先も評価し、支援の在り方を一緒に考えている。実習先との連携は進路先へもつながっている。

学校での取組は進路先につながります。

これまでの取組は、個別の指導計画の作成と活用をとおした成果として卒業生個表につながり、それが進路先に伝わっていく。個表を基に進路先と情報を交換し、支援の在り方を考えていくことで、より深い連携が図られた。

#### 2 機能的で実用的なシステムづくりのための改善点

個別の指導計画を実習課題表、卒業生個表にうまくつなげられればいいな。

高等部として、個別の指導計画に基づいて実習課題表や卒業生個表を作成している。その点では個別の指導計画は生かされている。ただ、様式的なところでうまくつながっていくにはどうしたらいいのか検討しなければならない。

「いつ、何を、どのように引き継ぐか」「卒業後もどうやって支援していくか」など個別の指導計画を移行支援のシステムとして確立し、生徒の将来の豊かな生活につなげていきたい。

（文責：大山 隆）